

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(3年制写真科総合写真研究専攻(昼間部))

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考	
講義	現代写真論	120	○	120	☆	120		
実習	スタジオ演習	120	○	120				
実習	写真表現演習Ⅰ	120	○	120				
実習	写真表現演習Ⅱ	120	○	120				
実習	写真撮影基礎演習/ファインプリントⅠ	120	○	120				
実習	画像処理Ⅰ	120	○	120				
実習	画像処理Ⅱ	120	○	120	☆	120		
実習	画像処理Ⅲ	120	○	120				
実習	フォトプレゼンテーション演習Ⅰ	120	○	120				
実習	フォトコミュニケーション演習	120	○	120				
実習	スタジオライティング	120	○	120	☆	120		
講義	総合写真研究ゼミⅠ・Ⅱ	240	○	240	☆	120		
講義	ゼミナール	240	○	120				
実習	作品制作演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	360						
講義	映像表現論	120	○	120				
講義	写真美術史	120	○	120				
実習	デザイン演習	120	○	120				
実習	ポートレート演習	120	○	120				
講義	フォローアップ講座	120	○	120				
講義	メディア表現論	120	○	120				
実習	テクニカルライティング	120	○	120	☆	120		
実習	映像制作演習	120	○	120				
実習(選択)	Web表現演習		○	120			選択科目のうち 4科目を選択し 受講	
実習(選択)	マガジンメイキング							
実習(選択)	文章表現演習Ⅰ		○	120				
実習(選択)	風景写真演習		○	120				
実習(選択)	フォトアート演習		○	120				
実習(選択)	デジタル表現演習		○	120				
実習(選択)	ムービー制作演習		○	120				
実習(選択)	ダークルーム		○	120				
実習(選択)	フォトクリエイティブ演習		○	120				
実習(選択)	写真創作演習Ⅱ	480	○	120				
実習(選択)	ルポルタージュ演習		○	120				
実習(選択)	ビジュアルデザイン		○	120				
講義(選択)	写真史		○	120				
講義(選択)	写真科学		○	120				
講義(選択)	編集出版論		○	120				
講義(選択)	ドキュメンタリー写真論		○	120				
講義(選択)	英会話		○	120				
講義(選択)	メディア論		○	120				
講義(選択)	美術造形論							
講義(選択)	社会学		○	120				
講義(選択)	異文化交流演習(留学生必修)		○	120				
総授業時数		3,600		4,920		600		
卒業に必要な授業時数		3,600						

2021

区分 必修 対象 I部1年生

科目名	現代写真論		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	鳥原 学		
授業概要 到達目標	<p>写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につけません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見る。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。毎授業後に授業レポートを提出し、理解を深めます。これらを通じて、受講生の写真を「見る」能力と「撮られる」側のことを考える能力を身につけます。</p> <p>授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして「現代写真論テキスト2021年度版」を使用します。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)
	2		カメラの楽しみを知る(三葉堂写真機店)
	3		イントロダクション「カメラとこの社会」
	4		ポートレート「写真の社会的役割」
	5		ポートレート「理想と現実」
	6		スナップショット「手軽な写真」
	7		スナップショット「”決定的瞬間”以降」
	8		ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」
	9		報道とドキュメント 1「記録と宣伝」
	10		報道とドキュメント 2「印刷メディアとジャーナリズム」
	11		ワークショップ(写真集の見方の指南)
	12		報道とドキュメント 3「フォトジャーナリストの主体化」
	13		広告写真 1「消費社会の原動力」
	14		広告写真 2「産業化と社会へのメッセージ」
	15		広告写真 3「音楽産業の拡大と写真の影響」
後期	1		芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」
	2		芸術と写真②「ストレイトフォト」
	3		写真展観覧
	4		芸術と写真③「アヴァンギャルド」
	5		芸術と写真④「日本の「芸術写真」」
	6		芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」
	7		芸術と写真⑥「現代写真の性質」
	8		ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」
	9		ファッションと写真②「多様性の受容」
	10		写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」
	11		写真と身体表現②「ヌードの変化」
	12		写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐる」
	13		ワークショップ(プリントスタディ)
	14		自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」
	15		自然と写真②「本能観察と文化人類学的視点」
評価方法	授業アンケートの質と期末のレポート課題。出席回数は厳守。 注意：アンケートや課題に不正（webからのコピペ、他人が書く）が発覚した場合、出席回数の如何にかかわらず落第とします。		
テキスト 参考書	『現代写真論テキスト2021年度版』。日本写真企画のホームページより購入のこと。		
講義の特徴 教員紹介	<p>視聴覚教材を使用しながら、様々な作家を紹介する講義形式を基本とするが、学生との対話なども取り入れる。また授業ごとに学生にはレポートを記入してもらい、担当教員は1993年から写真弘社にある写真ギャラリーアート・グラフ運営担当し、様々な展覧会を企画した。1998年からフリーになり、現在は写真研究者、写真評論家として様々な雑誌などに寄稿し、また写真関連の書籍も出版している。写真表現や写真家に関する豊富な知識に基づいて、写真家やカメラマンとして必要な写真をみる能力を身につけるための授業を展開する。</p>		

2021

区分

必修

対象

I部3年制3年

科目名	画像処理Ⅱ			
開講期	前後期		単位数	3
講師名	羽立 孝			
授業概要 到達目標	<p>”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。</p> <p>個々の目的のイメージにより、その必要充分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。</p> <p>それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。</p>			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge	
	2	LightRoom	Lightroomの使い方	
	3	CaptureOne	CaptureOneの使い方(テザー撮影)	
	4	Photoshop	レイターの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)	
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要	
	6	パス①	パスの概要	
	7	パス②	パスの選択、使い方	
	8	選択範囲	色	
	9	選択範囲	輝度	
	10	ブラシ	ブラシ概要	
	11	トーンカーブ	覆い焼き・焼き込み	
	12	トーンカーブ	濃度	
	13	トーンカーブ	カラー	
	14	テスト	前期内容	
	15	回答		
後期	1	CaptureOne	CaptureOne現像	
	2	スマートオブジェクト	概要	
	3	スマートオブジェクト	変形	
	4	スマートオブジェクト	フィルター	
	5	スマートオブジェクト	応用	
	6	描画モード	概要・スクリーン	
	7	描画モード	乗算	
	8	描画モード	乗算	
	9	描画モード	オーバーレイ	
	10	描画モード	オーバーレイ	
	11	描画モード	カラー	
	12	背景	背景処理	
	13	レイアウト作成	Photoshop・Illustrator	
	14	テスト	後期内容	
	15	回答		
評価方法	出席および授業態度			
テキスト 参考書	世界一わかりやすいPhotoshop 操作とデザインの教科書			
講義の特徴 教員紹介	<p>パソコン室での実習授業を基本とする。担当教員はフリーランスのレタッチャーとしてまたフォトグラファーとして、活躍しています。数々のフォトグラファーの撮影したファッション写真や広告写真をレタッチ（画像処理）し、最終的な写真に仕上げています。これまでつちかかってきた高度なレタッチ技術や現場での経験を活かし、レタッチ技術の応用を学ぶ授業を展開しています。</p>			

2021

区分

必修

対象

1部3年制2年
総合写真研究ゼミ・FWゼミ

科目名	スタジオライティング			
開講期	前後期	単位数	3	
講師名	市川森一			
授業概要 到達目標	前期は、物撮りを通して、スタジオライティングの基本的な考え方を学びます。1年生でやってきたことから更に踏み込んで、細部にまでこだわっていきます。			
	後期は、人物のライティングを通して、自由な発想で考えることの大切さを学びます。王道に縛られず、今までに見たことのないような君たちオリジナルの表現を見つけることが目標です。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業の概要	年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方	
	2	切り抜き	切り抜きについて 缶を被写体に、メインライトとハイライトを理解する。	
	3			
	4			
	5			
	6		切り抜き	
	7			
	8			
	9		合成前提の撮影について photoshop の使い方も含めて、合成のやり方を理解する	
	10			
	11			
	12			
	13			
	14		まとめ	前期内容の復習
	15		まとめ	前期内容の復習
後期	1	模写	プロの写真を真似る 各自がいいと思った写真を参考にして、同じライティングを再現する 被写体は人物の予定	
	2			
	3			
	4	自然光再現	自然光を再現する 各自が外で撮影してきた光の写真を参考にして、スタジオでライティングを作ってみる	
	5			
	6			
	7	写真以外を 参考に	絵画・映画・アニメ等、写真以外の表現を参考にして、ライティングを作ってみる	
	8			
	9			
	10	色彩から考 える	色の観点から、画作りについて考える	
	11			
	12	場所を活かす	スタジオ以外の場所で、場を活かしたライティングを考える	
	13			
	14			
	15	動きを考える	時間の観点から、写真表現の可能性を考える	
評価方法	出席状況、課題、授業態度等			
テキスト 参考書				
講義の特徴 教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)VDA(アマナグループ)に所属し、独立し、フリーランスのフォトグラファーとして、主に広告写真の分野で活躍中。広告写真やライティング、オリジナリティーのある写真がとれるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。			

科目名	総合写真研究ゼミB				
-----	-----------	--	--	--	--

開講期	前後期	単位数	3		
-----	-----	-----	---	--	--

講師名	菅沼 比呂志				
-----	--------	--	--	--	--

授業概要	<p>表現者としての基礎能力を高め、技術を身につけることを目指します。短期(A)・中期(B)・長期(C)課題と三つの課題制作を通して、自分なりの作品作りのプロセスを考え、その作品にあった見せ方・プレゼンテーションを探ります。前期は、短期(A)・中期(B)課題を通して、コンセプチュアルな作品作りを考え、複数の視点・方法論を持ち、より幅のある表現ができるようなスキルの取得を目指します。後期は長期(C)課題のフィニッシュとゼミ展(リアル or オンラインは未定)に向けての準備を予定しています。また、先人たちの作品にも触れ、手法を参照、研究しながら、自らの作品作りに生かすことも考えます。</p> <p>参加者の意欲や習熟度にあわせて授業内容を見直していきます。</p>				
------	--	--	--	--	--

到達目標	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真(他人の写真)や、自分の作品について、自分の言葉で語り、考えられる ・自分なりの美意識・世界観などを構築できる 				
------	---	--	--	--	--

授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
------	----	-------	------	--	--

前期	1	ガイダンス	前期授業内容の説明。自己紹介。		
	2	ガイダンス	1年次の作品と春休みの課題発表(A、B、Cゼミ一緒に)		
	3	ガイダンス	1年次の作品と春休みの課題発表(A、B、Cゼミ一緒に)		
	4	面談・演習	個人面談(中長期課題検討)・短期(A)制作		
	5	面談・演習	個人面談(中長期課題検討)・短期(A)制作		
	6	面談・演習	個人面談(中長期課題検討)・短期(A)制作		
	7	演習	作品合評会～短期(A)		
	8	講義	作品合評会～短期(A)		
	9	講義	作品合評会～短期(A)		
	10	演習	展覧会見学		
	11	講義	作家・作品研究		
	12	演習	作品合評会～中期(B)		
	13	演習	作品合評会～中期(B)		
	14	演習	作品合評会～中期(B)		

後期	1	ガイダンス・面談	後期ガイダンス、個人面談(長期課題検討)・長期(C)制作		
	2	面談・演習	個人面談(長期課題検討)・長期(C)制作		
	3	ガイダンス	合同でグループ展に向けての打ち合わせ		
	4	講義	作家・作品研究		
	5	演習	作品合評会～長期(C)		
	6	演習	作品合評会～長期(C)		
	7	演習	作品合評会～長期(C)		
	8	演習	展覧会見学		
	9	講義	作家・作品研究		
	10	演習	グループ展に向けての準備		
	11	演習	グループ展に向けての準備		
	12	演習	作品合評会～長期(C)		
	13	演習	作品合評会～長期(C)		
	14	演習	作品合評会～長期(C)		

評価方法	課題の内容と出席数で評価します。また、期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられません。				
------	--	--	--	--	--

テキスト					
参考書					

講義の特徴	<p>講義形式を基本とするが、学生とのディスカッション、対話なども取り入れる。担当教員は若手アーティストを支援するギャラリー「ガーデン・ガーデン」の立上げに参加。以後、若い世代の新しい表現を求めた公募展『つづほ展』(’02-’09年)や『! WALL』(’09年-)の運営のほか、中国・平遥国際写真フェスティバル、韓国・東江写真フェスティバル、マダガスカル・ビエンナーレ、台湾・Young Art Taipei等でも展覧会の制作やアートフォーラムレビュウのレビュアーをこなす。現在もキュレーターとして、様々な展覧会の運営に携わっている。その経験から現代作家、写真家育成に向けた授業を展開する。</p>				
-------	--	--	--	--	--

2021

区分

必修

対象

I部3年制3年
総合写真研究ゼミ

科目名	テクニカルライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	赤坂 トモヒロ		
授業概要 到達目標	この授業では、より実践的で応用的なスタジオワークや商品撮影のライティングを学びます。いわゆる「ブツ撮り」のテクニックを身につけることは、写真分野に関係なく大変な強みとなります。前期は基本のおさらいと与えられた課題をこなしていくことを中心に進め、後期は自らテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にしつつ、講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高め、同時に、ディレクターやクライアントのオーダーに応えることができるフォトグラファー育成を目標としていきます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提示し、個別に講評を行います。進捗状況により、動画撮影やドローンなどを学ぶ機会をもうける予定です。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業内容の説明	オリエン、講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。
	2	切り抜き写真 基礎	缶コーヒーの撮影を通じて切り抜き写真の基本的な流れ、ライティングを確認する。
	3		
	4		
	5	切り抜き写真 応用	上記第2、3回の撮影を発展させ、イメージ的な切り抜き写真を完成させる。 スマホの切り抜き撮影。ボディ部分と画面を一発撮りで表現する。 手に持ったスマホを撮影。一発撮りと合成前提の撮影の違いを学ぶ。 ボトルやグラスなどの透過物の切り抜き撮影。シズル感を表現する。
	6		
	7		
	8		
	9	ライティング 応用	ボトルやグラスなどの透過物のイメージ撮影。液体の表現等。 食品（パン、スイーツ等）の撮影。 上記の続き。布や小物を利用したコーディネートをする。
	10		
	11		
	12	動画基礎	動画の基本と機材について。 インタビューや製品マニュアルなどのよくある動画撮影の手順について学ぶ。
	13		
	14		
	15		
後期	1	実践①	課題撮影。講師が提示する商品を課された課題に従って撮影。
	2		
	3		
	4		
	5	実践②	作品撮り。自身のポートフォリオとしても使えるレベルの作品撮りを行う。問題点や改善点を随時講師から指摘し、完成度を高めていく。
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席状況および課題の提出状況等		
テキスト 参考書	講師が適宜用意する。		
講義の特徴 教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)アマナに所属し、独立し、その後にフリーランスのフォトグラファーとして、独立。ムービーとスチールの両方の撮影ができるフォトグラファーとして活躍中。クライアントのオーダーにこたえることができるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。		